



TITLE:

部局図書室へのコンテンツ・シート ・サービスについて

AUTHOR(S):

CITATION:

部局図書室へのコンテンツ・シート・サービスについて. 静脩 1968, 4(6):
7-7

ISSUE DATE:

1968-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36446>

RIGHT:

- 昭和42年3月28日～4月2日『近代日本のあけぼの展』朝日新聞社主催、大阪・阪急百貨店に「吉田松陰木像」他を。
 - 昭和42年8月27日～9月4日『京都で刊行された古版本展』丸善京都支店主催、京都・同店に「慶長勅版日本書紀」を。
 - 昭和42年10月1日～11月5日『近代国家への歩み展』山口県・同県教委主催、山口・県立山口博物館に「奇兵隊日記」他を。
 - 昭和42年10月10日～同22日『明治百年展』毎日新聞社主催、東京・伊勢丹百貨店に「西郷南洲筆品川彌二郎宛書翰」他を。
 - 昭和42年11月30日～12月2日『湯浅半月展』同志社女子大学主催、京都・同大学に雑誌「東壁」他を。
 - 昭和43年1月27日～2月11日『名刀と遺品が語る明治百年展』香川県・高松市・四国新聞社他主催、高松・県立文化会館に「薩長芸三藩盟約書」他を。
 - 昭和43年2月6日～同月11日『坂本竜馬展』NHK大阪中央放送局主催、大阪・松坂屋百貨店に「坂本竜馬筆書翰」他を。
- 以上のほか、現在申込を受けているものが3種ある。

部局図書室のコンテンツ・シート・サービスについて

本学の部局（学部・研究所、教室）図書室の現況については、本紙の「東西南北」欄において逐次御紹介しているところであるが、各図書室とも、それぞれ工夫をこらしたサービスをおこなっており、その中にコンテンツ・シート・サービスという奉仕活動が続けているところがいくつかあって、利用者から好評を博している。

このサービスは、それぞれの図書室でとっている近着雑誌の目次をすべて収録して、編集の上、印刷配付するもので、その方法は、各図書室によって色々である。例えば、医学部のように、洋雑誌の目次ページをそのままゼロックスにうつして印刷し、医学関係の全教官に配布するところもあるし、薬学部や数理解析研究所のように、外国から雑誌が到着するより2ヶ月も早く、「カレント・コンテンツ」という米国雑誌から、自館でとっている雑誌の目次をひろって研究者に配布するところもある。また、ゼロックスを使わないで、謄写版印刷で配布するところもあり、とっている全雑誌の目次をとることが不可能な場合、最も利用の多い雑誌を、各教官毎に5種類撰んでおこなう所もある。なかには、理学部の数学教室のように、雑誌は勿論、単行本、レクチャー・ノートの目次まで紹介している所もあって、方法は千差万別だが、それぞれ、人員・予算の不足をかかえながら、よりよい図書館サービスに努めていることに変わりはない。現在すでにこのサービスをやっている図書室は、医学図書館をはじめ、薬学部、法学部、経済学部、農学部、化学研究所、数理解析研究所、基礎物理学研究所、理学部数学教室、同物理学第二教室の各図書室である。もっとも、コンテンツ・シート・サービスは所属部局、教室の利用者を対象としたものであるから、原則的に、他部局の者が利用することはできないものであるけれども、ここに部局図書室のおこなうサービスの一例を御紹介する次第である。